

平成22年通常総代会開催

平成22年3月24日（水）午前10時 両総土地改良区会議室において開催され、来賓として農林水産省関東農政局並びに千葉県農林水産部よりご臨席いただき、盛会に執り行われました。

ごあいさつ (要約)



理事長 森 英介

総代各位と組合員皆様のご協力により現在行われている両総国営事業は、平成24年完成をめざし進捗率87%と順調に進捗してきましたが、昨年9月の政権交代を機に事業仕分け等があり、平成22年度土地改良事業予算の政府原案については、非常に厳しいものになっておりますが、今後も皆様のより一層のご理解をお願いいたします。

さて、今年度の用水業務につきましては、需要期の用水不足により用水業務が滞ることのないよう、管理委員会等に無駄のない水利用を努めていただきますので、ご協力お願いいたします。

昨年、皆様のご協力を得て行った国営事業維持管理計画変更については、昨年7月28日に千葉県に許可申請を提出し、本年1月15日付けで認可になりました。

また、組合費の改定については、平成22年より5ヶ年掛けて、段階的に地積割に移行することは、ご承知のことと存じますが、昨年1年間かけて、各検討部会で負担の公平性を保つための助成処置を行うことで結論に達したところです。



農林水産省関東農政局
両総農業水利事業所
所長 高祖 幸晴 様

国営事業着工以来17年目に当る平成21年度は、予算55億円で事業を執行し、全体的な進捗率は約87%に達しました。主な工事としましては南部幹線用水路を約7km施工し、栗山川統合機場・調整池の工事を県営ほ場整備事業「篠本新井地区」の工事に併せて開始しました。

次に、平成22年度の農林水産予算の政府案は2兆4,500億円、前年度比96%となっています。この中には、戸別所得補償制度のモデル対策費としまして、水田利活用自給率向上事業を含め5,600億円が計上されております。

他方、農業農村整備事業の予算は総額2,130億円で、今年度に比べて63%と大幅な削減となっています。このことにより、事業工期の長期化や新規採択の先送りなど大きな影響が考えられますことから、予算確保に関する県議会の意見書採択や各段階での要請活動などが全国的に行われており、両総用水事業推進協議会からも先般要請活動がなされたところです。



千葉県農林水産部
技監 相川 文明 様

近年農村を取り巻く環境は、農業従事者の後継者問題や高齢化、耕作放棄地の増大、更新時期を迎えた農業水利施設等、問題が山積みされております。

千葉県財政も非常に厳しい状態ではありますが、平成22年度の農林水産関係予算としまして約470億円を確保いたしました。その内、土地改良事業関係予算につきましては、担い手の育成をはじめ、農地利用促進事業、老朽化した農業水利施設を計画的に更新するストックマネジメント事業に重点を置き、約160億円を予算化しました。

千葉県といたしましても農家の営農意欲や地域の創意工夫を積極的に引き出し、最大限の効果を発揮できるよう事業の緊急性、効果などを十分に検討し効率的な予算の執行に努めてまいります。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。